

「思考するトイレ空間」としての フェムテック情報ステーションの構築

大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた
ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト

「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

ー大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



代表団体及び実証先：国立大学法人 金沢大学

協力企業

- ・花王株式会社（雑談のチカラ）
- ・味の素株式会社（雑談のチカラ）
- ・Lupinus合同会社（雑談のチカラ）
- ・株式会社VACAN（トイレ内サイネージ設置運営）
- ・株式会社グロースベネフィット（ナプキン提供モニターの設置運営）
- ・日本カルミック株式会社（自動開閉式サニタリーボックスの利用提供）
- ・fermata株式会社（フェムテック展示会協力）

ほか、次年度にむけた意見交換など協力企業数21社

2024年2月8日時点

実施体制



「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



実施項目

1

トイレ内 フェムテック情報ステーション

デリケートで話題にしづらい女性特有の健康課題について、トイレから情報発信していくことで、悩みを共有し、課題解決に結びつけていく。フェムテック関連サービスや商品の提供も行い、リサーチの場にもしていく。

3

学生とつくる フェムテック動画配信

学生や教職員への情報提供を目的として、学生有志とフェムテックについて知る・学ぶ動画を制作し、トイレ内モニター等で配信し、男性を含めたより多くの人にフェムテックに関心を持ってもらうようにする。

2

企業と学生をつなぐ 「雑談のチカラ」

金沢大学の教職員・学生と地域・社会との共創の契機として、自由な語らい（雑談）の場を創出する全学的交流事業「雑談のチカラ」。フェムテックをテーマに「雑談」を展開し、個人のアイデア創出、ネットワーク構築につなげる。

4

フェムテック・ライブラリー

フェムテックに関心を持った人たちが、より深く学べる機会を得られるよう、フェムテック関連書籍の展示や、パネルで紹介していく。書籍は金沢大学の蔵書として、今後も研究に活用していく。

1

トイレ内フェムテック情報ステーション「思考するトイレ」

7つのテーマ[不妊、月経、性感染症、更年期、包括的性教育、緊急避妊薬、AYA世代のがん]のインフォグラフィックを10のトイレ内に掲示。

※男性トイレと女性トイレはテーマ共通



1

トイレ内フェムテック情報ステーション「思考するトイレ」

トイレ内のサイネージにオリジナル動画を配信。



トイレ内サイネージ



ナプキン支給型 トイレ内サイネージ

企業と学生をつなぐ「雑談のチカラ」



2023年10月17日（火）

iU 学生起業家・京田祐里奈さんとのトーク・カフェ
「フェムテックで起業する！」

ゲスト：京田祐里奈さん

（Lupinus合同会社代表・【iU】情報経営イノベーション専門職大学4年）

参加者：11名



2023年10月23日（月）

花王&味の素のフェムテックの取組

「なぜ、いま、フェムテック？～痩せたい ⇒ 健康で自分らしいわたしへ～」

ゲスト：花王株式会社（アジアフェムテックフェムケア・プロジェクトメンバー）

味の素株式会社他

参加者：20名

オープニング企画として、フェムテックアイテム展示会とミニライブラリーを実施。



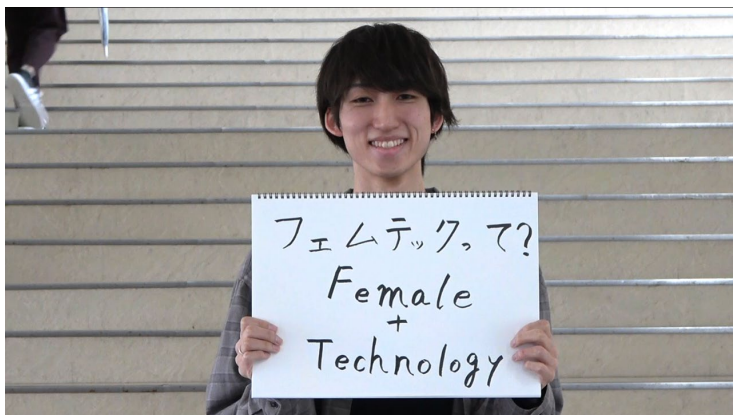
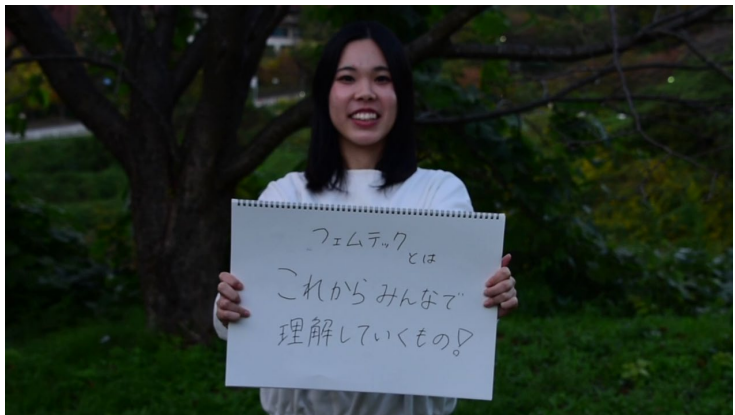
2023年10月16日・17日
フェムテックアイテム展示会



2023年10月16日・17日
フェムテック・ミニライブラリー



学生とつくる フェムテック動画配信+α



教職員・学生・ゲストと協働し
トイレ内のサイネージに配信する動画を製作。



「雑談のチカラ」のトークをきっかけに
新規動画を製作。





フェムテック・セミナー

子どもを預っていただけるので心配なく
エクササイズ参加できました。

大変嬉しい企画をありがとうございます。
自分のための時間をもてました。



子どもの預かりを目的に同時開催として、
「子どもの運動あそび体験」を実施。

参加者：16名

普段体を動かす機会がないので良い機会を
与えていただきました。



2023年12月10日（月）「体をととのえる！骨盤底筋エクササイズ」

参加者：10名



「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

ー大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

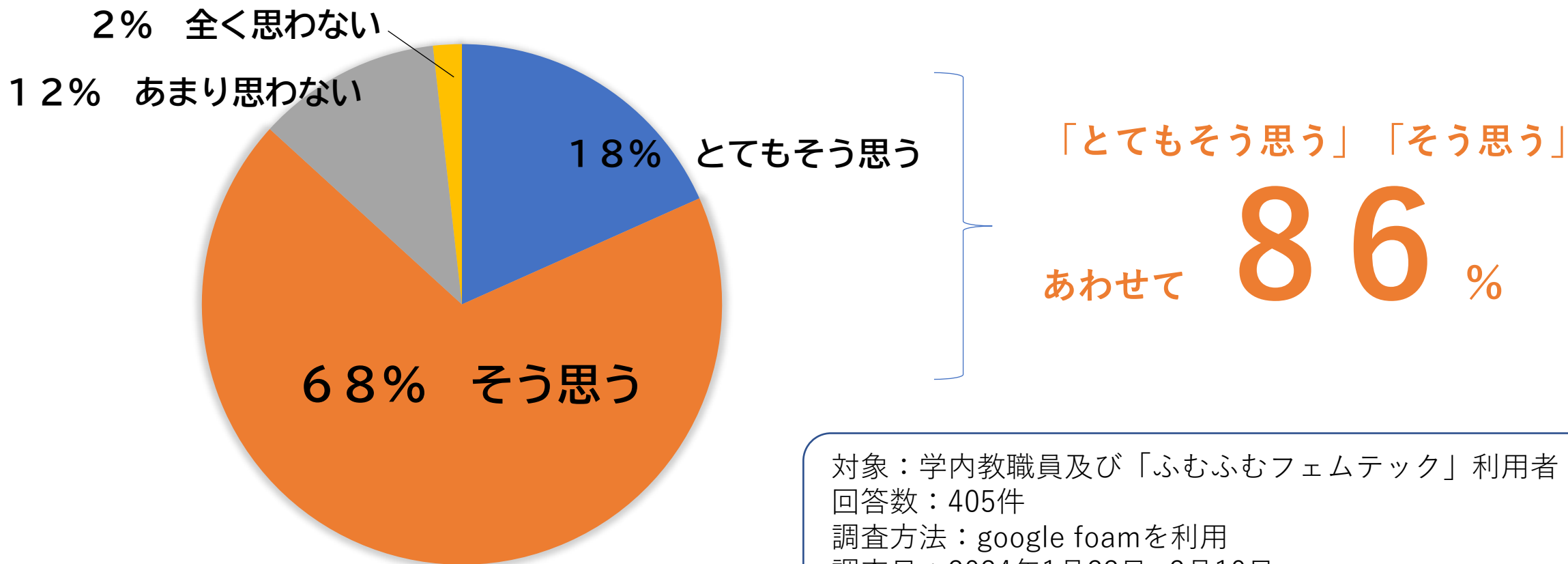
ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



実施目標

- 1 ヘルスリテラシーの向上と仕事モチベーション増
- 2 男性も含めた全教職員・学生のフェムテック関心度増加
- 3 継続的なヘルス・リテラシー教育プログラムの創出
- 4 企業とのコラボレーション企画への展開
- 5 フェムテック研究プロジェクトのスタートアップ
- 6 金沢大学におけるダイバーシティ推進の取組についてメディア発信

Q. 「ふむふむフェムテック」を通して健康への理解が深まったか？



対象：学内教職員及び「ふむふむフェムテック」利用者
回答数：405件
調査方法：google foamを利用
調査日：2024年1月22日～2月10日

良かった意見（自由記述） 334件

思考するトイレを利用したことで、**子宮頸がんについて健康意識を持つようになりました。数年ぶりに検診を受け、今後も2年おきに検診を受けようという意識を持つことができました。**

生理のPMS。私が気にしていた症状をみんなが持っていることを知ることができた。

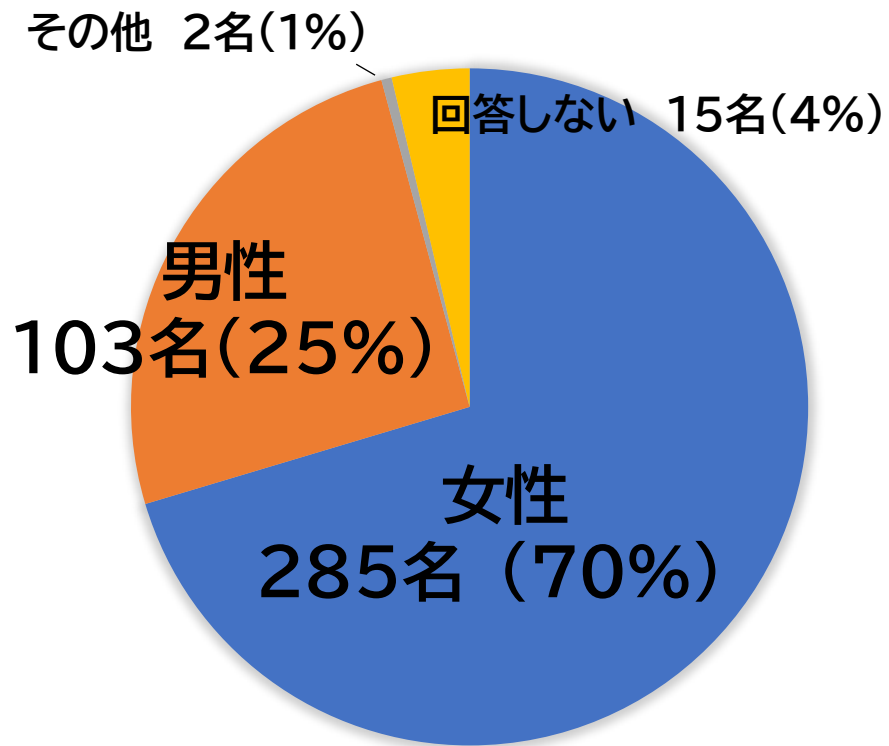
性感染症は、保健の授業で習ったけど、覚えていないことが多かったので、勉強になったし、もっと知識を深めたいと思った。

今回、この企画（とくにトイレ企画）によって、**男性の私でも、フェムテックに関する理解をすることができ、相互理解へ近づいた気がする**。この機会に少し調べてみたが、フェムテックの対義語としてメンテックも存在するようである。例えば不妊などは、女性の問題と思われてきたが、男性の問題の可能性もある。これは少しずつ浸透はしてきたが、一般的といえるかは難しい。このように健康上の課題を理解しようとする手助けとなった企画であったと思う。**パートナーや家族への理解を深めることに大いに役立つと感じた**。

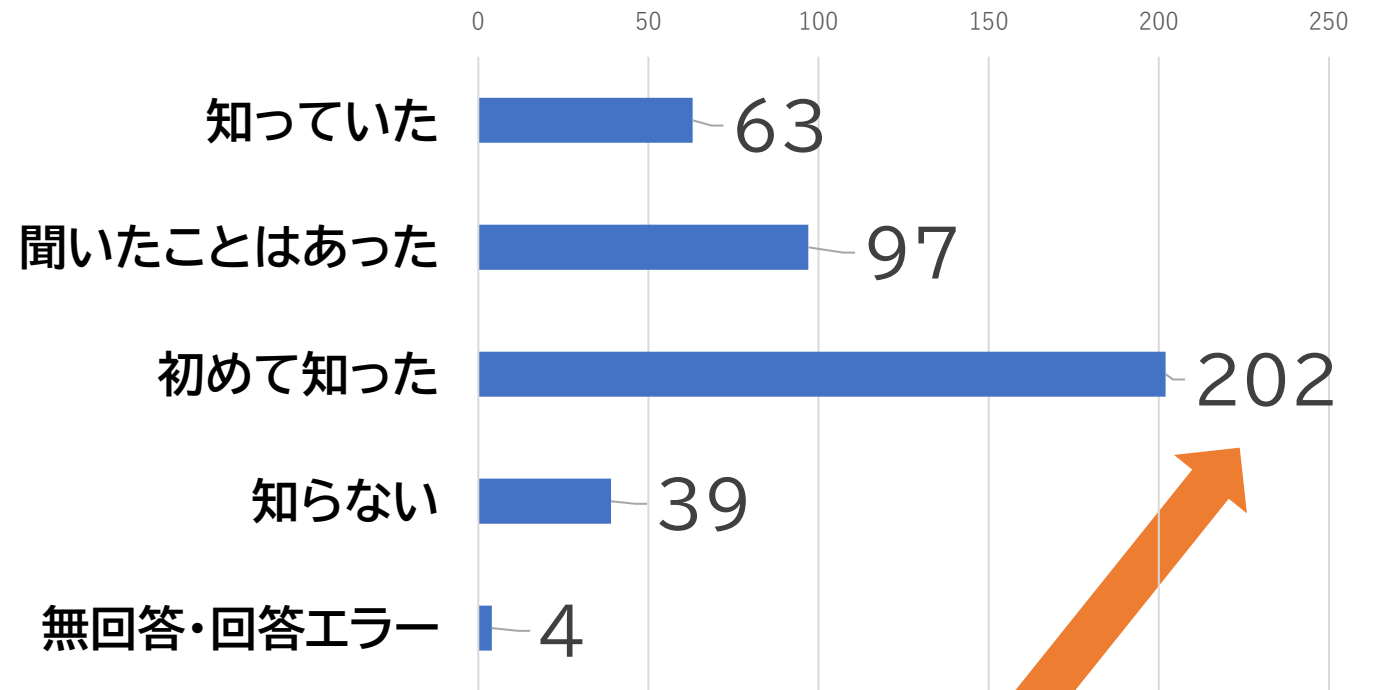
性的な話題や知識は公に取り上げられることがなく隠されがちで、友人とそういった話をするのも恥ずかしいので、問題や悩み、疑問があっても個人の中に留まって共有されない点に不安を感じていました。今回の取り組みではそういった話題を**公共の場といえるトイレで自然に見れるように取り上げて、知識を共有してくれたので、安心感を感じましたし、とても有り難かったです**。

性別

男性103名がアンケートに回答



「フェムテック」という言葉を知っていたか。



このプロジェクトで、
「フェムテック」を知った人が、全体の50%！

図書館や保健管理センターでのフェムテック関連書籍の公開

各部署への書籍貸し出し



項目ごとの 成果

4

企業とのコラボレーション企画への展開



新規動画へ展開！



Lupinus合同会社、花王株式会社・味の素株式会社とのトーク（雑談のチカラ）

次年度にむけて9社と意見交換を実施



金沢大学 ダイバーシティ推進機構



学生主導プロジェクトの創設



スウェーデンのユースクリニック視察調査
※学内研究紀要で報告予定

掲載メディア

【新聞】

- ・北國新聞（2023年10月17日）
- ・北陸中日新聞（2023年10月18日）→
- ・日本經濟新聞（2023年12月30日）

【ウェブ】

- ・ PR TIMES (2023年10月31日)
- ・ FASHION BOX (2023年12月16日)
- ・ MonoMax (2023年12月25日)



今後の 予定・期待

仕事のモチベーションに具体的に
つなげていく。

次年度も継続予定。アンケート
の意見を参考に内容を検討中。

協力企業と意見交換を進め、
プロジェクト化していく予定。

若い世代のがんについての啓発がもっと多くなれば、検診を受ける機会も増えると思うので**学生と職員の健康状態の改善に大変役立つプロジェクト**だと思った。

こういった女性の悩みや健康面での辛さを男性側も正しく理解するべきだと感じるので、**イベントや講演などの任意参加ではなく、一年次での必修科目に取り込むことができれば、大学全体での認識や待遇の変化につながると思う。**

健康について行うなら、**症状や実態のほかにも症状を改善する方法(生理痛を和らげるためには~したらいい)など、大学生の生活に使える改善策も取り上げる**といいと思った。

